

図書紹介

折木 良一 陸自72 著

『経営学では学べない』

戦略の本質』

井上廣司 陸自72

現在、社会では「経営戦略」「営業戦略」など、頻繁に「戦略」という用語が使われているが、戦略の本家ともいえる軍事戦略の視点を踏まえた時、本質的な部分が抜けて落ちてきているのではないかと、筆者は指摘する。

経営学が考える戦略と、筆者が自衛隊勤務の中で考えてきた戦略とは、似ている部分もある一方で、大きく違う点もある。本書はその違いを、実体験を基に明らかにし、民間の経営戦略に自衛隊という「戦略」の本家から味付けしようとしている。

第1章では、孫子から始まった軍事戦略の流れと経営戦略の専門家の流れを分析し、軍事戦略を知らずに「戦略」は語れないことを説いている。

第2章、第3章では、戦史研究が「戦略」を語るために重要な方法であることを指摘し、キューバ危機、ノルマンディー上陸作戦、ミッドウェイ海戦、ガダルカナル作戦を取り上げて、戦史が教えてくれる「戦略」を一般の国民にもわかりやすく紐解い

ている。

第4章では、きれいな「戦略」だけでは、人も組織も動いてくれないことを、実体験を通して明らかにし、折木流「人と組織を動かす五つの原則」を紹介している。

特に、統合幕僚長時代に経験した、あの東日本大震災への対応の中、突然突き付けられた放射能が漏れている福島原発への放水を命じた時の苦悩と決断の個所は、思わずその状況に引き込まれる。

第5章では、民間の経営戦略に抜け落ちていく「地政学」の視点から戦略論を展開している。特に、地経学的視点で分析した「中国の一带一路戦略」の項目は、中国の強かさを明確に指摘するとともに、対応する戦略の必要性を指摘している。

第6章では、多くの日本人が持つ「他者への甘え」、「集合的無意識」から脱却しなければ、真の「国際戦略」は図れないと言う。

最後の第7章で、経営戦略では考えにくい「休むことの効用」いわゆる「戦力回復」の重要性を述べている。これから「戦略」を考え、深くかわかっていく諸兄に是非読んでいただきたい一冊である。

発行 KADOKAWA

電話 0570-002-301

定価 1400円（本体価格）